

本「風をつかまえた少年」

三年四組三番藤田ゆずか

SDGsの考え方

二〇二四年、世界は数多くの問題を抱えて
 いる。そして現在「SDGs」という二〇三
 〇年までに達成すべき十七の目標が掲げられ
 ている。これにより、日本では食料を無駄な
 く使ったり、水や電気を節約するなど、日常
 生活でも様々な取り組みをしている。今まで
 の学校の授業でもSDGsに関する内容のも
 のを沢山受けてきた。そのため私は、日本人
 のほとんどがSDGsの意識が常日頃あると
 思っている。しかし、私含めほとんどの人が
 今日の前にある問題にしか焦点を当てていな
 いように思う。この目標を達成するために工
 夫する。そのような考えの人が大多数なので
 はないか。私はもっと考え方を変えてほしい
 と思う。

そう考えるようになったきっかけはある一
 冊の本を読んだからだ。それは、ウイリアム
 カムクワング、ブライアン・ミラーの「風
 をつかまえた少年」という本だ。この本は、

主人公ウイリアムが、図書館である一冊の本と出会い、彼が住むアフリカの最貧国マラウイに独学で風力発電をつくるという内容だ。

私はこの本に心を惹かれた。たった十四歳の少年が、過酷な状況下かつ独学で風力発電を作ったことか魅力だ。私は特に、最後まで諦めず、決して簡単ではない目標を達成するウイリアムの姿が印象的に思った。彼は中学校に通っていたが、飢饉のせいで両親が学費を払えず、退学せざるを得なかった。それで

も何とか学校の図書館だけは使用許可が下りた。このようにウイリアムは環境に恵まれておらず、苦難を強いられた。しかし、図書館でエネルギーの利用とこの本と出会い、研究して風車を作りマラウイを救った。もし私か、ウイリアムと同じような環境に居たら学校に通えなくなっただ時点で学ぶことを諦めて、自分か出来る最大限の中で必死に生きようとしていると思う。しかし、ウイリアムは図書館で独学でエネルギーを学び、風力

発電をするための風車を作るといふ発展的な
 内容に挑んでいて感心した。学びを止めない
 ウィリアムだからこそ、風車を作り出すこと
 が出来たのだと思つた。また、本に書かれて
 いる「何かを実現したいと思つたら、まずは
 トライしてみることだ」といふ言葉にしては
 納得した。この言葉はウィリアムが言うから
 こそ、説得力があると思つた。もし私がウィ
 リアムの立場だったらと前に書いたように、
 私は何かが続けられなくなるかと、挑戦するこ
 とを諦める考え方があった。また、私は勉強計
 画を立てて始めの方からつまずくときに、や
 る気が失われ、その日を無駄にしてしまふ。
 そんな私に、我ながらウィリアムの言葉を迷
 りたいと思つた。

もう一つ、私がこの本を読んで考えたこと
 がある。それは、電気の尊さについてだ。ウ
 リアムの住む地域では、電気はとても苦勞し
 て得たものだ。しかし、私たちの住む日本や
 海外への旅行先でも、大体電気には困らない。

困った場合も、大体自然災害の原因であるため、電気が復旧するまでの辛抱だけで済む。そんな環境に常にいる私たちは電気の尊さを感じていないと思う。SDGsのためには節電を要する。その考えにプラスして電気は身近なものではあるか、生活に必要不可欠であると考えようと、更に節電できると思う。

この考えは水や食料にも言えることだと思う。水は処理場があるから、蛇口をひねると安全な水が得られる。食料も誰かが育てて収穫してくれているからすぐ手に入る。そのような考えが広まると、もっとも、とエコな世界になつていくのではないかと考える。